

岩手県的小麦栽培における越冬前後の踏圧時期及び回数の違いが生育に及ぼす影響

【概要】

- 岩手県における小麦の踏圧時期と回数
 - 越冬前は、小麦3葉期以降（概ね播種1か月後）より可能となります（表1）。
 - 越冬後は、融雪後、ほ場の地耐力が高まり、初めて踏圧作業が可能となった時点から10~20日以後に1回以上行うことで、倒伏が低減されます（表2）。

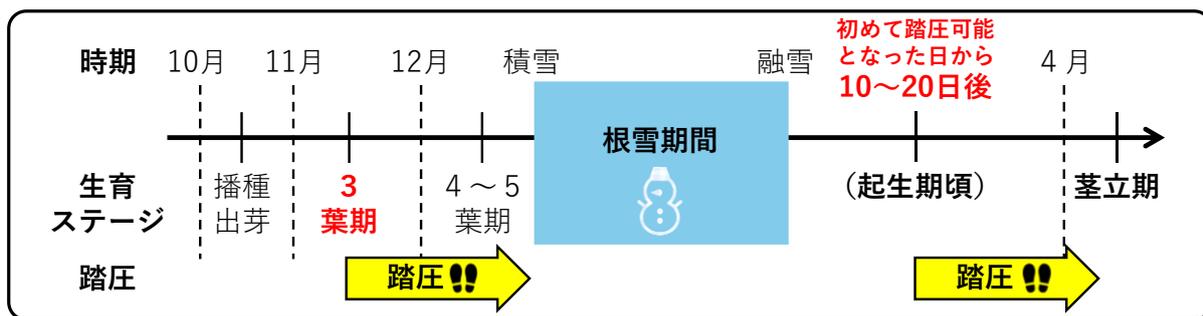


図 小麦の踏圧時期のイメージ (例)

- 留意事項
 - 踏圧は、根張りを良好にするほか、凍上害や過繁茂を抑制する効果が知られています。根の浮き上がりや過繁茂、幼穂の生育が早まることが予想される際は、越冬前後に関わらず、複数回の踏圧を行いましょう。
 - 土壤水分が極端に高い条件や、茎立ち期以降の踏圧は減収となる恐れがあるため、控えてください。

【試験データ等】

表1 越冬前の踏圧時期別の生育及び収量

越冬前踏圧		越冬前後の莖数		生育ステージ		成熟期調査			倒伏	収量調査		【Point】 小麦3葉期の踏圧は、生育や収量に影響を与えない。	
葉齢	時期	12/上	4/上	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	程度	千粒重	子実重		
(葉)	(月/旬)	(/m ²)	(/m ²)	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(/m ²)	(0-5)	(g)	(kg/a)		比(%)
3.4	11/中	511	1001	5/5	6/23	84	8.9	427	0.7	36.9	45.5	102	
4.7	12/上	502	1043	5/5	6/23	83	8.9	445	0.4	36.9	44.4	(100)	

表2 越冬後の踏圧回数・時期別の生育及び収量

越冬後踏圧		越冬前後の莖数		生育ステージ		成熟期調査			倒伏	収量調査		【Point】 越冬後の1回以上の踏圧により、倒伏が低減される。 越冬直後の踏圧は低収となる恐れがある。	
回数	時期	12/上	4/上	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	程度	千粒重	子実重		
(回)		(/m ²)	(/m ²)	(月/日)	(月/日)	(cm)	(cm)	(/m ²)	(0-5)	(g)	(kg/a)		比(%)
(1) 越冬後の踏圧回数別 生育・収量													
0	-	349	1028	5/3	6/22	83	9.0	432	0.8	37.1	48.1	(100)	
1	中期	367	1100	5/3	6/22	82	8.8	439	0.0	37.4	50.0	104	
3	早~晩	402	1025	5/3	6/22	81	8.8	412	0.0	36.8	47.6	99	
(2) 越冬後の踏圧時期別 生育・収量													
1	早期	482	1126	5/5	6/22	88	8.9	476	0.1	37.9	47.5	(100)	
1	中期	497	1307	5/5	6/22	89	8.8	530	0.3	37.2	50.9	107	
1	晩期	497	1224	5/5	6/22	88	8.9	523	0.5	37.0	48.8	103	

※ 「早期」は融雪後初めて踏圧作業可能となった時点、「中期」は「早期」より10~20日後、「晩期」は幼穂形成期前後にそれぞれ踏圧を行った。

【令和7年度成果】岩手県的小麦栽培における越冬前後の踏圧時期及び回数の違いが生育に及ぼす影響 (R7-指-07)